

# ellipse

[エリプス]

## TOPICS

### 女子大学から生まれるイノベーション —その1. 「社会貢献に関するアンケート調査」から— イノベーション・プロデュース研究会 池田まさみ 氏

楕円(ellipse)には焦点がふたつあります。男性中心の社会から、女性と男性がそれぞれに中心(焦点)となる社会を目指すという思いを込めて、誌名を「エリプス」と名づけました。



ワ・タ・シ

深津知寿 FUKATSU, Chizu イラストレーター  
東京生まれ。1988年、お茶の水女子大学文教育学部地理学科卒業。在学中に、『週刊朝日』誌上にて「山藤章二の似顔絵塾」特待生となる。広告代理店勤務を経て、1990年より作家活動を開始。書籍装画、CDジャケットなど多く手がける一方、エッセイ執筆、壁画制作などの活動を展開している。

## REPORT

共催講演会のご報告

松尾葉子氏「音楽と夢と」

2009年度お茶の水学術事業会 活動報告

## INFORMATION

お茶の水女子大学イベント情報

平和祈念プロジェクト21

『絵日記による学童疎開 600日  
の記録展』

事務局よりお知らせ



特定非営利活動法人

お茶の水学術事業会

# 女子大学から生まれるイノベーション

—その1.「社会貢献に関するアンケート調査」から—

イノベーション・プロデュース研究会 池田まさみ



▲池田まさみ (IKEDA MASAMI)

2001年お茶の水女子大学大学院人間文化研究科修了。博士(学術)。同大学大学院助手、講師を経て、2007年より同大学人間発達教育研究センター特任准教授。専門は、認知心理学、発達教育学。視覚認知に関する基礎研究の他、子どもの「論理的思考力」育成のための教授法や教材開発に取り組む。2008～2009年度、女子大学連携による「イノベーション・プロデュース研究会」の座長を担当。

イノベーションとは、単に技術の分野にとどまらない。新しい組み合わせ、それがイノベーション\*1。

2004年に国立大学が法人化されて6年が経ちます。大学の使命として、教育・研究とともに“社会貢献”のあり方がこれまで以上に問われるようになりました。お茶の水女子大学がこれまで果たしてきた社会貢献とは、そして、今後果たすべき社会貢献とは何か。問題の検討に先立ち、奈良女子大学、日本女子大学、そして本学の先生方にご協力いただき、「社会貢献に関するアンケート調査」(2009年1月)\*2を実施しました(資料1)。

本稿では、調査結果に基づいて女子大学の特徴を洗い出し、その特徴を踏まえて、イノベーションの視点から、お茶の水女子大学の社会貢献の展開について考えてみたいと思います。

\*1 オーストリア出身の経済学者シュンペーターによる「経済発展の理論」の中心的概念。

\*2 平成20年度文部科学省「産学官連携戦略展開事業(戦略展開プログラム)」において遂行された研究活動の一環。活動はお茶の水女子大学を母体とする「イノベーション・プロデュース研究会」に基づいて行われた。

## I 女子大学の特徴とは

### ①女性教員数と学部・系の構成(資料2)

各大学の所属学部・系別にみた教員数の内訳を示します。総数の男女比を見ると、女性教員数は、お茶の水女子大学と日本女子大学では半数以上、奈良女子大学でも約3割と、圧倒的に多いことが分かります。例えば、2007年度の国公立大学756校を対象とした全国平均(文部科学省「学校教員統計調査」)では、女性教員の割合は約18%にとどまっており、共学の理工系では5%に満たない大学もあります。

学部・系の構成に関しては、多くの女子大学が共通して「生活科学(家政)」の分野を有しており、この分野をもつ共学の大学はほとんどありません。この点は女子大学のひとつの特徴と言えるでしょう。

### ②女子大学の特徴に対する意識

ところで、「女子大学の特徴を意識して研究していますか」という質問に対して、意識していると回答した教員の割合(大変意識している:22.4%,まあまあ意識している:38.3%)は全体で6割を超え、そこでは、男性教員の割合(66.2%)が、女性教員(56.1%)よりも10%ほど高いことが示されました。また、分野別(理系、文系、生活科学系)を見ると、生活科学系が約8割と、もっとも高いことが分かりました。

この結果は、女性だから、文系だからといった意識とは別に、女子大学としての何か具体的な特徴があることを示唆していると言えます。

### ③女子大学が社会に貢献してきたことは(資料3)

その特徴を探るべく、女子大学が最も果たしてきたと思われる社会貢献を選択してもらったところ、「リーダーとなる女性人

資料1

### 女子大学の教員の「社会貢献」に対する意識調査

【対象】 お茶の水女子大学、奈良女子大学、日本女子大学  
教員・研究員(大学院生および大学生は除く)

【方法】 Web調査を基本形式とした。  
\*ただし、回答者からの要望があれば紙媒体も可とした。

【期間】 2008年12月22日～2009年1月30日

	配布数	有効回答数	回収率
お茶の水女子大学	298	120	40.3%
奈良女子大学	215	28	13.0%
日本女子大学	299	63	21.1%
大学名無回答*	-	3	-
<b>総数</b>	<b>812</b>	<b>214</b>	<b>26.4%</b>
		(男性91/女性123)	

資料2

教員数	所属	性別		計
		男性	女性	
お茶の水女子大学	大学院人間文化創成科学研究科文化科学系	34	31	65
	大学院人間文化創成科学研究科人間科学系	20	21	41
	大学院人間文化創成科学研究科自然・応用科学系	57	33	90
	大学院人間文化創成科学研究科先端融合系	7	4	11
	センター・機構他	23	68	91
	合計	141	157	298
奈良女子大学	所属	男性	女性	計
	役員	3	0	3
	文学部	49	16	65
	理学部	51	11	62
	生活環境学部	23	19	42
	大学院人間文化研究科比較文化学専攻	3	5	8
	大学院人間文化研究科社会生活環境学専攻	6	4	10
大学院人間文化研究科共生自然科学専攻	9	1	10	
大学院人間文化研究科複合現象科学専攻	7	1	8	
センター・全学共通	5	2	7	
	合計	156	59	215
日本女子大学	所属	男性	女性	計
	家政学部	26	53	79
	文学部	20	30	50
	人間社会学部	44	35	79
	理学部	23	23	46
	合計	113	141	254

材の育成・輩出」という顕著な結果を得ました。

#### ④「女子大学」ならではの強みとは（資料4）

次に、女子大学ならではの視点から、その強みを尋ねてみたところ、「リーダーとなる女性社会人の育成・輩出」「少人数制を活かした教育」「リーダーとなる女性研究者の育成・輩出」を筆頭に、「女子学生の視点・発想」「社会・生活に密着した研究視点」が続きました。

人材の育成・輩出と同時に、学生の「知」そのものが大学としての力であり、強みであることが伺えます。

#### ⑤「女性の視点」ならではの研究・発想とは（資料5）

女子学生の視点・発想とは、具体的にはどのようなことを意味しているのでしょうか。

調査では、「女性の視点・発想」が研究に活かされたかどうかについて尋ねています。結果は、女性の視点・発想に基づいて研究を行ったことがあるとする教員は全体の36%程度で、実際にその研究が社会的な活用に関わった割合は20%ほどしかありませんでした。

女性の視点・発想に基づいて研究を行ったことがあるとする教員に、その強みを尋ねてみたところ、「生活・くらしに密着した発想が可能である」、「きめ細やかな発想が可能である」、「社会での身近な問題を起点とした発想が可能である」としています。しかし、そうした研究を行ったことがないと回答した教員は、その理由として、「研究内容と女性ならではの視点に関連性がないから」「女性の視点を意識したことが無いから」と回答しています。

すなわち、先に出てきた「女子学生の視点・発想」というのは、性別に関係なく、学生の「知」そのものに対する評価であり、「女子学生」がそのまま「女性」に結びつくものではないということです。

#### ⑥女子大学の特徴として見えてきたこと

以上の調査結果を踏まえて、女子大学の特徴を考えてみると、女子学生の「知」を最大限に引き出す力が、女子大学にこそ在ると言えるのではないのでしょうか。女性の潜在能力を信頼し、引き出し、活かすべく教育に取り組んできた女子大学としての

確かなキャリアと精神が感じられます。女性教員の数が多いというのも、そのひとつの現れかもしれませんが。本学に関して言えば、学術的な専門性と多様なライフスタイルを持つ女性教員に対応できる環境（保育施設「いずみナーサリー」の設置など）とそうした女性モデルの積極的な雇用（女性研究者支援モデル育成）事業などが、さらなる女性人材の育成と輩出につながり、お茶の水女子大学ならではのキャリア支援と人材育成の双方向性モデルが実現しているのではないかと考えられます。

## II 女子大学における社会貢献とは

### ①社会貢献に対する教員の意識と活動

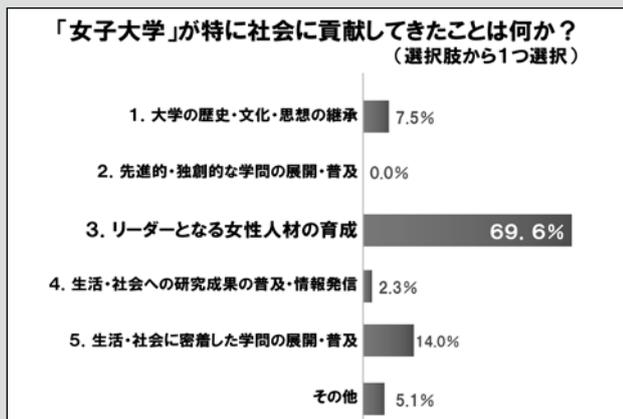
大学から教員個人の意識に目を転じてみたいと思います。「ご自身の研究成果は社会に貢献できると思いますか」という質問に対して、貢献できるとする割合（大変貢献できる：15.9%、まあまあ貢献できる：63.1%）は約8割と非常に高く、特に本学は三女子大学のなかで最も高い結果でした（83.4%）。また、研究分野別（理系、文系、生活科学系）に見てみると、生活科学系が際だって高く、教員の約92%は貢献できるとしています。ところが、実際に社会貢献活動をしていると回答した教員の割合は約7割で、生活科学系でも約8割と、意識よりも10%ほど下回ることが分かりました。

### ②研究成果と社会貢献について（資料6）

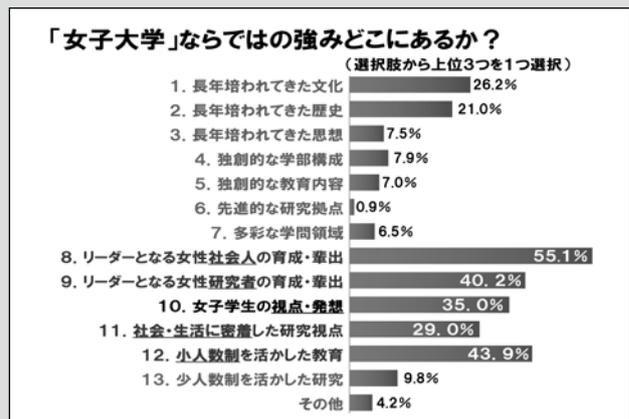
「どのような活動が、研究成果の社会への貢献に当てはまると思いますか」という質問に対しては、ここでも「人材育成」が圧倒的に高く、次いで「情報発信（本・メディアでの活動、講演、シンポジウム）」「論文・学会発表」という順でした。では具体的に、「ご自身はどのような活動を行っていますか」と尋ねてみると、「論文・学会発表」が最も多く、次いで「情報発信」「人材育成」があげられました。

ここで注目すべき点は、教員の「研究成果の社会への貢献」に対する認識と実際の活動との間には、かなり大きな“ズレ”があるということです。

資料3



資料4



### ③社会貢献に対する認識と活動の“ズレ”

実は、この“ズレ”に女子大学の社会貢献のあり方を考える鍵があると言えるかもしれません。

例えば、本学のような少数精鋭制かつ基礎研究を主体とする女子大学においては、教育と研究は一体化しており、学術的にも専門性を重視した人材育成が求められます。すなわち、教員における学術成果（論文・学会発表など）は、社会への直接的な貢献というよりも、結果として、人材育成につながる間接的な貢献としての意味が強いように思われます。つまり、「貢献」の解釈に“ズレ”が生じた結果と言えるかもしれません。

### ④社会貢献の評価について

解釈という点では、そもそも社会貢献が何をもってどのように評価されるのか、基準や定義などが分かりにくいということもあると思います。

特許出願件数や共同・受託研究の受入件数や受入額、研究論文・発表件数などは定量化しやすく、評価にも結びつきやすいと言えます。しかし、大学のなかには、直接的には定量化しにくい社会貢献も多く存在することが、今回の調査結果からも明らかになっています。例えば、地域と大学との連携による専門講座の開設・実施、次世代を担う子どもたちへの科学教育や学術的知見の提供、学生が主体となって取り組む地域との連携活動など。こうした取り組みに対しても、「研究成果の社会への貢献」として評価できる指標、そして、それらが社会に認識され活用されるための広報活動などがこれからますます重要かつ必要になってくると思われる。勿論、特許や技術開発などは素晴らしい成果です。ただし、そうしたカウントできる評価のみにとらわれ過ぎると、大学のなかの大切な「知」を見逃すことにもなりかねません。

## Ⅲ ヒューマン・イノベーションの時代

### ①社会貢献と“パラダイム・チェンジ”

ところで、社会への貢献活動を行っていないと回答した教員

は、その理由として、「社会貢献の定義が曖昧でよくわからない」「忙しくて社会貢献活動まで行う時間がない」「研究内容と社会貢献活動に関わりがない」としています。これは、教員の社会貢献に対する認識の問題を浮き彫りにするものです。すなわち、社会貢献が大学の使命として位置づけられているとの認識が薄いこと、社会貢献を見据えた教育・研究がなされていないこと、あるいは活動していたとしても、それらの関係性が理解されていないことなどが露呈されたと言えます。

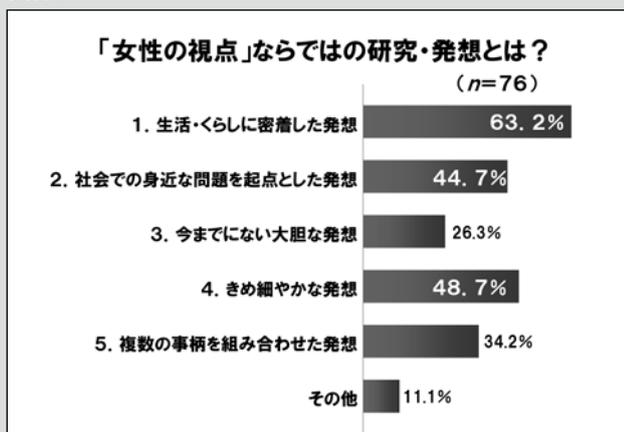
大学においては、社会貢献が単に特許や技術開発にとどまるものではなく、教育・研究と切っても切り離せない活動であり、多様な取り組み方があることを教員自身が認識することが大切だと思います。大学が、社会に生きる「知」としてのイノベーションを実現するためには、教員の意識改革、すなわち、“パラダイム・チェンジ”（視点の転換）が何より重要だと感じます。また、大学では、そうした問題を見極め、教員への啓発を最優先にすべきかもしれません。

### ②“人間力”を核とした“女子大学力”へ

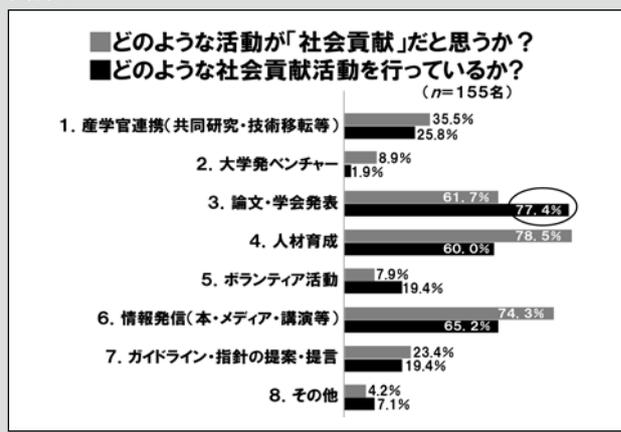
総じて言えること、それは女子大学における社会貢献の中心は、「人」であるということです。人材育成にしても、教育・研究の知見を基盤とした地域・社会との連携活動にしても、すべて人と人の相互性、関係性で成り立つものです。21世紀の大学における社会貢献のあり方は、“人間中心のイノベーション”として展開されるべきではないかと思います。

例えば、お茶の水女子大学においても、本学が長年にわたって培ってきた知を基盤として、社会人女性のためのリーダーシップ養成コースやリカレント教育、地域との連携によるカレッジの開設など、多様な社会貢献のあり方が追求できるのではないかと思います。キャリアアップと人材育成のインタラクティブな教育モデルを展開すること、そして、そこに育成された人材の配置・活用戦略を図ることは、“お茶大型ヒューマン・イノベーション・モデル”として、その実現が期待できると言えます。

資料5



資料6



## 共催講演会のご報告

## 「音楽と夢と」

## 指揮者 松尾葉子氏

日時：2009年12月5日(土) 14:00～16:00

場所：お茶の水女子大学

主催：お茶の水地理学会

共催：お茶の水学術事業会

参加：109名



松尾葉子氏は昭和50年に本学の音楽科を卒業後、東京藝術大学指揮科に進学し、その後フランスのエコール・ノルマル音楽院に留学。1982年に指揮者の登竜門であるブザンソン・国際指揮者コンクールで、日本人としては小澤征爾氏以来2人目、女性としては初の優勝者となり注目を集めました。

当日は学外からも54名の参加者があり、DVDを鑑賞しながらの楽しい講演会でした。

音楽を始めて50周年と伊勢湾台風50周年の記念すべき2009年に、母校で講演できて嬉しく思います。今日も雨ですが、台風も雪も“私のお友達”です。私の自慢は、どんなに悪天候の時も、中止は一度もないことです。ピアノとの出会いは小学校1年生、忘れられない伊勢湾台風の年です。名古屋市南区の自宅も水害を受け恐怖の体験をしました。この台風では5千人以上の方が亡くなりましたが、この方達が私の守護霊となってコンサートを聴きにきて応援してくださるように思えます。

「女性で初めて」—いつも自分について回る言葉です。「何故、女性なのに指揮者に?」「女性指揮者のハンディは?」など、飽きるほど聞かれました。強いて言えば、腕の力が足りない事くらいですが、このような質問をされるのが一番のハンディだと思います。指揮者=男性と思い込んでいるからで、「女性指揮者」などという言葉がおかしいと思います。どんな音楽を表現したいのかを楽団員に伝えていく、という仕事が指揮であるなら、男女に差はないはずです。

『ドン・ジョヴァンニ』を指揮している時、この話の舞台を15世紀のヨーロッパから、同時代の日本、すなわち能が確立された室町時代に置き換えてみたいと思いました。歌詞は音楽を尊重して原語のままとしつつ、能・狂言の手法を使った演出で、能舞台を使い、着物を着て、オペラを上演しました。私も袴をはき、たすきを掛けて指揮をしました。西洋の真似でない日本流オペラができた事にとても満足しています。

次に西洋音楽と日本文化の“融合”として考えたのが『カルメン』。ホセとカルメンのやり取りは、浄瑠璃の世界に通じるも

のがあると思いました。『カルメン』は1800年頃のスペイン・セヴィリヤの町が舞台ですが、同じ頃の日本では近松門左衛門の浄瑠璃がもてはやされていたのです。そこで、文楽様式による『異説・カルメン情話』を思いつきました。人形の動きを歌手がまね、黒子を歌手の傍に配置して、人形を動かしているように動いてもらうという人間浄瑠璃を試したいと考えたのです。演奏には義太夫の浄瑠璃と三味線も加えました。

このように同じ作品を全く違う手法で表現してみましたが、全く違和感がないことが不思議でした。今後も、元の音楽を尊重しながら、オペラを日本の伝統文化と上手に融合して娯楽として楽しめるように、プロデュースしていきたいと思います。

2005年から墨田区のトリフォニーホール・ジュニア・オーケストラ(小学生から高校生)の音楽監督を依頼されています。音楽用語を使わず簡単にわかり易く教えますが、子どもなりに理解して演奏すると見違えるような表現になります。大人が練習前から「難曲」という先入観を持ち躊躇するようなものでも、子どもたちは「今は難しくても、練習してみないとわからない」とチャレンジします。テクニックは未熟でも感覚で乗り切るらしく、子どもの持つ能力と成長力に感心させられます。大人の先入観や考えを押しつけず、色々な国の曲を子どもに経験させてみたいです。

子どもたちを指導する時は、一緒に山に登るような気持ちで臨んでいます。音で目立ちたいと思うのは当然なので、規律を守りつつ、しかも目立つように、指導していくと素晴らしい曲に仕上がっていきます。曲の解釈では、作曲家や曲の時代背景を自分で調べさせるようにします。初めは数行の短い文章だったのが、すぐにレポートのようになり、次第に音楽を通してこんな事を伝えたい、と思うようになっていきます。子ども達をまとめながら、全体の中での自分の働きを考えさせていくのが指揮者だと思っています。この積み重ねがあれば、素晴らしい音楽、ひいては素晴らしい日本の文化ができます。今、私には子どもに伝えたい事がたくさんあります。

(お茶の水地理学会のレポートより抜粋)



# お茶の水女子大学 イベント情報

2010年6月以降に開催される各種イベントのお知らせです。詳細は、各主催者にお問い合わせください。

期日	イベント・講座名	参加費	備考
2010年6月 ～9月	第9回 附属図書館企画展示 「夏フェス2010 暑さを楽しむヒントあり☑」	無料	【会場】お茶の水女子大学附属図書館1階キャリアカフェ横 【詳細】附属図書館のHPをご覧ください。 <a href="http://www.lib.ocha.ac.jp/tenji/tenji_top.html">http://www.lib.ocha.ac.jp/tenji/tenji_top.html</a> 【お問合せ】E-mail: library@cc.ocha.ac.jp
2010年 6月2日(水) 15:00～16:30	連続講演会 「リーダーシップ論」第4回 小倉和夫氏 (国際交流基金理事長)	無料	【会場】お茶の水女子大学共通講義棟2号館201(予定) 【お問合せ・お申込み】 リーダーシップ養成教育研究センター TEL/FAX: 03-5978-5520 E-mail: info-leader@cc.ocha.ac.jp
2010年 6月12日(土) 10:00～12:00	幼児教育未来研究会 テーマ: 協同するからだことば ◆事例提供: 静岡大学教育学部附属幼稚園 ◆助言: 無藤隆先生 (白梅学園大学)	無料*	【会場】お茶の水女子大学附属幼稚園 【詳細・お申込み】 「幼児教育未来研究会」のHPをご覧ください。 <a href="http://www.u-gakugei.ac.jp/~miraiken/">http://www.u-gakugei.ac.jp/~miraiken/</a> *資料代をいただく場合がございます。
2010年 6月16日(水) 14:30～16:30 (開場 14:00)	公開講演会 「共に生きる一池上彰さんに聞いてみよう」 ◆第1部: 講演「共に生きるとは」(池上彰氏) ◆第2部: 「池上彰さんに聞いてみよう」	無料	【会場】お茶の水女子大学理学部3号館701 【詳細】お茶の水女子大学のHPをご覧ください。 <a href="http://www.ocha.ac.jp/information/20100427.html">http://www.ocha.ac.jp/information/20100427.html</a> 【主催・お問合せ・お申込み】 お茶の水女子大学 グローバル協力センター E-mail: info-cwed@cc.ocha.ac.jp ※事前申込み制(先着150名様)となります。
2010年9月～ 2011年2月 (後期)	公開講座「知の市場」 2010年度に知の市場は全国32拠点で108科目相当を開講いたします。お茶の水女子大学では、前期の2科目に続いて後期もCT302b(科学と社会事例研究2)とCT471(金融特論1)の2科目を開講します。 (知の市場HP - <a href="http://www.chinoichiba.org/">http://www.chinoichiba.org/</a> 参照)	無料	【主催】お茶の水女子大学 ライフワールド・ウオッチセンター 【会場】お茶の水女子大学共通講義棟1号館 【募集】後期の受講者募集は6月中旬から開始 【お問合せ・お申込み】知の市場お茶大事務局 E-mail: ocha-jim@chinoichiba.org お茶の水女子大学 ライフワールド・ウオッチセンター(増田研究室) 〒112-8610 東京都文京区大塚2-1-1 TEL 03-5978-5018、FAX 03-5978-5096

## オープンキャンパス 2010

7月18日(日)・19日(海の日)(予定)

お茶の水女子大学の夏の一大イベント、オープンキャンパス(大学見学会)は、例年7月の第3日曜日と翌日の海の日に開催されます。学長からのメッセージ、学部・学科紹介、体験授業、在校生による学科説明や相談コーナー、お茶大グッズの販売など内容も盛りだくさんです。

昨年(2009年度)は、7月19日(日)・20日(海の日)に開催されました。猛暑にもかかわらず19日は、生活科学部(午前)・理学部(午後)の見学者約2,400名、20日には文教育学部の見学者約2,000名、2日間で約4,400名の受験生やご家族の方々が参加されたとのこと。今年度の詳しい予定・内容は、今後お茶の水女子大学のHPに掲載されますので、ご覧ください。(http://www.ocha.ac.jp/)



(撮影: 大塚 常樹氏)

### お茶大ゴーフル 好評発売中!!

お茶大ゴーフルのご注文は お茶の水学術事業会事務局まで  
E-mail: info@npo-ochanomizu.org  
TEL&FAX: 03-5976-1478



- ばにら・ちょこ・いちご 各4枚入 600円(税込)
- 地方発送も承っております(送料はお客様負担となります)

## 2009年度 特定非営利活動法人 お茶の水学術事業会活動報告

お茶の水学術事業会は、「社会貢献」・「大学との連携」をキーワードとして、様々な活動に取り組んでいます。

### 【セミナー・シンポジウム】

#### 1. 「女性のためのパソコン教室～スキルアップで仕事に強くなる～」

(2009年6月22日、23日、29日、30日)

男女共同参画週間(6月23日～30日)に合わせて、文京区男女協働・子ども家庭支援センター担当課との共催で行い、好評でした。初日には、お茶の水女子大学ジェンダー研究センター特任アソシエイトフェローの林葉子氏に「女性の多様な働き方を考える」と題して講演していただきました。

#### 2. 共催講演会「音楽と夢と」(2009年12月5日)

※5ページをご覧ください。

### 【講師紹介】

#### 1. 小平市シルバー大学(2009年9月15日)

- ◆講師：菅 聡子氏(お茶の水女子大学教授)
- ◆テーマ：「近代文学の楽しみ - 司馬遼太郎『坂の上の雲』から始める -」

#### 2. 新宿区立愛日小学校 PTA 主催講演会(2009年10月26日)

- ◆講師：内田 伸子氏(お茶の水女子大学教授)
- ◆テーマ：「子どものウソは「嘘」? - 創造的想像力を育む大人の役割 -」

お茶の水学術事業会では、講演会やセミナーを共催していただける団体を募集しています(一定の条件があります)。また、ご要望に合わせて講師をご紹介します。詳しくは事務局まで、お問合せください。

### 【学会事務代行業務】

アジア政経学会、日本近代文学会、関根賞、表現学会、日本唾液腺学会



### 【編集・印刷物への協力】

- ◆ブックレット『連続講演会「リーダーシップ論」』
- ◆理学部パンフレット(オープンキャンパス用)
- ◆アフガン保健教育テキスト合本『A BOOK ABOUT LIFE : FOR YOUR WELL-BEING』
- ◆『いのちをつなぐ遺伝のしくみ』

### 【HP作成・管理請負】

認定遺伝カウンセラー制度委員会HP

### 【会報「エリプス」第19号～21号発行】

「エリプス」がとうとう20号を超えました。大学の入学式、オープンキャンパス、ホームカミングデーでも配布しました。

### 【企画・販売】

- ◆新制大学60周年記念絵はがき&お茶大絵はがき
- ◆お茶大クリアファイル

### 【その他】

1. 販売 - お茶大ゴルフ、お茶の水ブックレット
2. 受託販売 - 雅 Grace、『物理学者 湯浅年子の肖像』、藍染ハンカチ、『私の女高師、私のお茶大』
3. イベント情報のメール配信

メーリングリストにアドレスを登録なさっているお茶の水学術事業会関係者の方々に、大学関連の様々な情報をお伝えしています。メール配信を希望される方は、事務局(info@npo-ochanomizu.org)までご連絡ください。

## お茶大クリアファイルができました!!



お茶大の伝統美—大学本館、本館中庭のしだれ桜—、構内にさりげなく咲く花、そして可愛い子猫(通称:お茶猫)。お茶大の魅力をちりばめたクリアファイルができました。裏面の貴重な招き猫ポーズにもご注目ください。

素敵な写真を撮影して下さったのは、お茶大絵はがきと同じく、お茶の水女子大学教授の大塚常樹先生です。

大塚先生によれば、この子猫は、一部の学生の間では、【桜小路くん】と呼ばれており、兄弟の【梅小路くん】(大塚先生命名)とともに、10年前から理学部で管理してきたミーちゃんの系統で、3代目か4代目の、正統お茶猫だそうです。ミーちゃんがかつて篠塚英子先生(お茶の水女子大学名誉教授、当会会員)が、気品のある猫として日経新聞で紹介なさった有名な猫ですが、【桜】と【梅】の兄弟もりりしく上品な美形猫として、学生たちに愛されています。

- ◆お茶大生協にて好評発売中 定価: 120円
- ◆お茶の水学術事業会からの地方発送も承ります。10枚以上まとめてご購入いただく場合には、特別価格となります。詳しくは、お茶の水学術事業会事務局(TEL: 03-5976-1478 E-mail: info@npo-ochanomizu.org)までお問合せください。

「エリプス 21号」でご紹介した 平和祈念プロジェクト21による企画展示が行なわれます!!

## —平和の大切さを伝えたい— 『絵日記による学童疎開 600日の記録展』

東京女子高等師範学校附属国民学校の集団疎開の記録 **入場無料**

■平成22年8月3日(火)～8月15日(日) ※9日(月)は休館日 ■横浜市本郷台 神奈川県立地球市民かながわプラザ3F 企画展示室

今年には戦後65年、戦後生まれが人口の3/4となりました。  
「命と平和と自由は当たり前にあるのではない」  
次の世代に伝えたいメッセージを込めて、集団疎開の出発から解散まで、子どもたちが一日も欠かさず描いた、絵日記の展示を行います。  
太平洋戦争の末期、日本の敗色が濃くなってきた昭和19年8月、政府は大都市の子どもたちを安全な田舎に疎開させるといった政策を実施しました。疎開の子どもたちはどのように生活し、何を考えていたのか絵日記が【時代の証言者】となって、語りかけてくれるでしょう。  
今も戦いの火にさらされている国の子どもたちに、インタビューをしている映像を見ました。



「平和って何?」

—「おなかいっぱい食べられること」「ゆっくり寝られること」「家族と一緒にいられること」  
疎開体験者も高齢となり、自主的に展示を行うのは今回が最終となります。この機会に1人でも多くの方々にご覧いただければ幸いです。

(平和祈念プロジェクト21 前田徳子、美川季子 S22年卒)

同時開催 2F 映像ホールにて

【講演】入場料 大人 800円：高校生以下 400円

◆8月6日(金) 13:00～15:00

『父は学童疎開の企画立案者』上田 博章 氏(元朝日放送アナウンサー)

◆8月8日(日) 13:00～15:00

『水に流せない過去』高良 政勝 氏(対馬丸生存者 対馬丸記念館館長)

【朗読劇】入場料 大人 1500円：高校生以下 800円

◆8月11日(水) 14:00～16:30

『夏の雲を忘れない—1945・ヒロシマ ナガサキ—』

出演(予定)：大橋 芳枝・山口 果林・神保 共子・高田 敏江・

長内 美那子・岩本 多代

〈主催/お問い合わせ〉平和祈念プロジェクト21

E-mail : enikki@k4.dion.ne.jp

ホームページ : <http://www.h5.dion.ne.jp/~s600days/index.html>

〈共催〉神奈川県立地球市民かながわプラザ

〈協力〉お茶の水女子大学附属小学校

〈後援〉横浜市教育委員会・神奈川新聞社・神奈川県教育委員会・TV 神奈川



**ヤマザキ**  
www.yamazakipan.co.jp



## おいしいパンと暮らそう。

たとえば、新鮮な朝の空気を深呼吸したり、  
庭に咲く小さな花を見つけたり、  
朝食のパンがおいしかったり。  
特別なことじゃなくて、  
そんな、ふとした時に感じる幸せが、  
毎日をちょっと素敵に、  
豊かにしてくれるのだと思います。

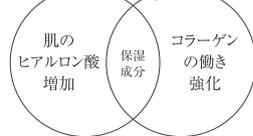


## ライフサイエンスから生まれたスキンケア

細胞生物学の最先端研究の中で室伏教授が発見した新成分 cPA (シービーイー) は、あなたの体内のヒアルロン酸を増やして、本来あるべき良好な状態に導きます。  
雅Graceは cPA を配合した世界初のスキンケアです。

室伏きみ子(お茶の水女子大 教授) 監修

新成分  
**cPA**  
配合



雅Grace  
グレイス化粧水 150mL

雅Graceグレイス乳液 100mL  
雅Graceグレイス美容液 30mL

\*写真は、グレイス化粧水 150mLです。

美しく見える肌ではなく、ほんとうに美しい肌へ。  
**雅 Grace —グレイス—、誕生。**

販売元: SANSHO株式会社 TEL 03-5203-0716 WEB <http://c-pa.jp/>

なお、お茶の水学術事業会で、特別価格でお取り扱いをしております。  
詳しくは、本会事務局まで お問い合わせください。

E-mail : [info@npo-ochanomizu.org](mailto:info@npo-ochanomizu.org) TEL & FAX : 03-5976-1478



◆事務局所在地  
東京都文京区大塚2-1-1  
お茶の水女子大学  
理学部3号館204

◆交通機関

地下鉄 丸の内線  
茗荷谷駅から徒歩7分

地下鉄 有楽町線  
護国寺駅から徒歩8分

都バス  
大塚2丁目バス停すぐ

### 編集後記

女性らしさ・男性らしさが曖昧になっている昨今、“女子大の意義”を言葉にするのは容易なことではありません。ただ、卒業して改めて気づくお茶大の良さがあります。理学部出身のあるスタッフは、学生時代、実験の合間に学内でヨモギを摘んで、先生と一緒に草もちを作ったのだとか。このような研究室の雰囲気、師弟関係はお茶大ならではのようです。

### 広告募集

このページに広告を掲載しませんか? 次号は2010年9月に2500部発行予定です。会員の皆様はじめ全国の公共機関などに配布しています。広告料金は、1回につき20,000円。詳しくは下記までお問い合わせください。

### 事務局

**OPEN 月～金 10:00～16:00**

〒112-8610 東京都文京区大塚2-1-1 お茶の水女子大学 理学部3号館204  
TEL&FAX 03-5976-1478 E-mail : [info@npo-ochanomizu.org](mailto:info@npo-ochanomizu.org)  
<http://www.npo-ochanomizu.org>

※会員の方は、お問合せの際、会員番号をお知らせください。会員番号は封筒の宛名ラベルに印字してあります。